

2 か月間日本へ滞在し、6月29日ルワンダへ戻りました。今ルワンダは、乾季で1か月以上雨がありません。その為、粉塵によって屋根や樹々は白くなり、強い日差しが照っています。乾季には、首都のキガリでも断水があり、地域によっては2か月間続きます。活動地のリリマでは、炎天下青年が100キロ以上の水を、額に汗して自転車で運ぶ姿がよく見られます。給水場から自宅まで5キロあるいはそれ以上の距離を、しかも自分の体重以上の水を運ぶのです。欠かすことのできない水を得るための日々の労力は、大変なものです。

私が不在だった2か月間、大きく変わったのがDV（家庭内暴力）で苦しんだアドリンとその家族（夫と息子3人）です。今年の1月より、私たちの支援を終了する準備を進めてきたアドリンたちですが、ここに至って私たちの期待以上の変化と成長を遂げました。

帰国前の4月末、私が家庭訪問した際には、彼女はトマトなど少量の野菜を売りに市場へ出ていましたが、今では家の一室を店舗にして日用雑貨を販売しています。砂糖や穀類、キャンディやドーナツ、ノートにボールペンなど多数の品目を並べて、一日当たり150円余りの売り上げがあると言います。近隣に他の小売店がないため、立地条件は良いと言えます。加えて、4部屋ある家の内装を全てコンクリートにしているのです。これらの費用は、全て彼女と夫が捻出したもので私たちの支援によるものではありません。かつては塀が壊れ、土作りの家には複数の穴が空いたみすぼらしいものでしたが、夫婦の関係が回復すると同時に、家も修復され立派になりました。

長年、夫の暴行が続いた夫婦の関係は、この地域では周知のことでした。昨年より私たちの支援が始まり、二人が変わって地域のリーダーが「この夫妻は良いモデルだ・・・」と言って表彰し、アドリンご夫妻へ成牛1頭を贈られました。リーダーだけでなく私たちにとっても大きな喜びであり、支援を終了した式典を行う準備をしています。ここまでにくださった神への感謝と共に祝福を願い祈るためのものです。



自家製のビールを販売するアドリン



アドリンと商品が並店舗

大虐殺でトラウマを負った女性・シングルマザーのアルフォンシン（3人の子供を持つ）は、1年間の縫製の学びを終えて、私たちは先週ミシンを供与しました。4月にミシンを供与したバレンティンと同じ中古のミシンでほぼ同額の約1万円です。アルフォンシンもバレンティンと同じく大変喜びました。私たちは、今後2か月余り様子を見て経済的自立が可能か否かを判断します。

大虐殺でトラウマを負ったアタナジィと彼女の7人の子供たちは、5月上旬センターから徒歩で15分余りの所に引っ越しました。その目的は、彼女が一般社会で種々の誘惑に打ち勝つことが出来るかどうか、症状が悪化しないかなどを確認するためのものです。アタナジィは6月に何度かアルコールを口にしたものの7月には問題なく過ごしています。子供たちは、一時期一度に数人が病気を患って受診したようですが、現在は全員元気になっています。そして、私がルワンダへ戻ったことを、飛び上がって喜んでくれました。

極度の貧困でトラウマを負った19歳のバレンティンは、昨年12月交際のボーイフレンドにレイプされ妊娠しました。母と娘が暮らす家庭で起きた事件によって、二人ともに新たなトラウマを負いました。更に、地域社会や教会での醜聞によって症状が悪化し、5月上旬、アタナジィがセンターを出て行くと同時に、バレンティン母娘をセンターへ招き入れました。ふたりの心身の安静と、バレンティンが生まれてくる赤ちゃんを受け入れ、愛するようになるまで、センターで共同生活をしつつ精神的支援が必要と考えています。現在、バレンティン母娘は穏やかに暮らしています。



センターで暮らすバレンティン母娘

皆様のお祈りに感謝いたします。そして、私は元気に暮らしています。

どうぞ、続けてお祈りくださるようお願い致します。皆様の上に神さまの豊かな祝福を祈りつつ。

在主

2016年7月30日

リリマにて

竹内 緑